

Monthly Report

 Vol.171 / 2020.JUL
(月1回発行)

大学再開に向けて～コロナ対策実施・対面授業一部再開～



剣道の基本動作を学ぶ学生の様子

7月1日（水）から対面授業の一部を再開し、構内に少しずつ活気が戻ってきました。

今回の再開に関して、コロナウイルス感染防止を最優先に考え、講義科目については原則、遠隔授業を継続していますが、実技や実習系の授業で「3密」を回避できるものに限定しています。

また、大学構内への入構時には以下の条件を満たした学生の入構が認められます。

- ①対面授業開始14日前からの検温・体調管理のデータ（スマホ等で提示）
- ②大学構内への入退構管理に必要な学生証の提示
- ③サーモグラフィによる体温チェック

※ 入構できる学生は、①～③を経た学生に限られ、少しでも風邪の症状や倦怠感など体調不良を感じる場合は入構できません。

その他、マスクの着用、座席数を減らすなどの対策等を徹底することで対面授業の一部再開となりました。

なお、7月17日（金）～7月26日（日）まで一時学内での対面授業を停止していましたが、現在は入構時のチェックを更に強化した上で再開しています。



入構時に検温及び入構管理システムに学生証を提示する学生の様子

目次

・大学再開に向けて ～コロナ対策実施・対面授業一部再開～	1
・CM楽しみ！／仙台大学と明成高校が タッグ／メイキング裏話聞きました	2
・仙台大学同窓会による大学及び学生支 援、贈呈式が開催されました ・令和2年度 学術会主催「新任教員発表 会」（第102回 学術集会）開催	3
・「令和元年度（後期）健康づくり運動サ ポーター認定証授与式」を開催 ・東京2020ホストタウン親善大使／ロシア 語入門講座を開講しました ・馬 准教授/令和2年度宮城県公衆衛生研 究基金の助成金が決定しました	4
・仙台大学からATCへの道のり（後編）	5
・～ 医療の最前線から仙台大学へ・世界 で活躍する人材育成を目指して ～	6
・ベガルタ仙台役員が講義／高大接続、ハ イブリッド型授業／私立大学研究ブラン ディング事業一環 ・白幡恭子助教がハワイ州立大学院の運動 機能学科博士課程を修了	7
・芝草通信 NO. 15	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 27	9

学生の活躍や、取り組みなどをご
存知でしたら広報室までお寄せく
ださい。

Monthly Reportで紹介する他、
報道機関にも旬な話題を提供して
参ります。

本誌へのご意見・ご質問等があ
りましたら広報室までご一報くだ
さい。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

CM楽しみ！／仙台大学と明成高校がタッグ／メイキング裏話聞きました

仙台大学と附属明成高校をPRするCMができました。カッコいいんです。毎週土曜日、東日本放送（KHB）の番組『めざせ！ 頂点』（毎週土曜日午前9時30分～、30分間）をぜひ見てください。

7月18日にCMが初回放送となり、明成高校の今年4月からの「スポーツ創志科」新設と体育系大学の仙台大学が高大7年間の学びで専門的な知識を得られることをアピールしています。

CMの理念は、スポーツ科学をけん引する教育機関の意志と進化を表す「ノンストップ」です。今回制作してくれた広告代理店「第一エージェンシー」営業局長の阿久津守さんに撮影秘話などをうかがいました。

一高校での撮影はどうでしたか。

「明成高校の撮影では雨が降る場面もありましたが、無事にいつも通りの雰囲気での撮影を行うことができました。バスケットボール部の撮影では高校生とは思えないシーンを撮ることができました」

一女性同士が川べりですれ違うシーンはとってもカッコいい。

「明成高校、仙台大学から1名ずつ参加してもらいました。共に運動部に所属していて初対面でした。撮影は朝6時前からでした。プロのメークさんに来てもらい、バッチリ化粧をして撮影を始めました。息もピッタリ。お2人とも運動部ということもあり、走り方は素晴らしく、何本走っても息が切れることはありませんでした。逆に撮影スタッフの方が息切れしていました」

一スポーツの絵柄ばかりなのかと思いきや、かわいらしい子どもたちの笑顔も見られました。プレイルームですね。

「託児所内にいる子どもたちと学生（子ども運動教育学科）が絡む撮影でしたが、子どもたちはいつもと違うおじさんたち（？）に囲まれて、緊張した様子でした。撮影がスタートしても本調子までは遠く、慣れるのに時間が掛かりました。でも終わる頃には、いつもの笑顔が見られました」

一そうそう、かわいらしさの後は力強さを示すシーンがあります。男子学生が第3体育館1階のトレーニングセンターでバーベルを挙げています。

「通常のトレーニング風景を撮影しました。通常のメニューではなく高負荷のトレーニングにチェンジして撮影を行いました。担当した学生は顔色変えずに対応していて、とにかくびっくりしました」



一仙台大学といえば漕艇部です。2019年全日本インカレでは男子が総合優勝。CMでは女子が白石川を力強く漕いでますね。

「早朝5時30分からスタンバイし、朝練に参加しました。撮影に協力していただいた学生たちは監督、コーチ指示の下、何度もいいシーンが撮れるように協力していただきました。ありがとうございます」

一もう一つお聞きします。体操競技部の南一輝選手が床運動をやってます。

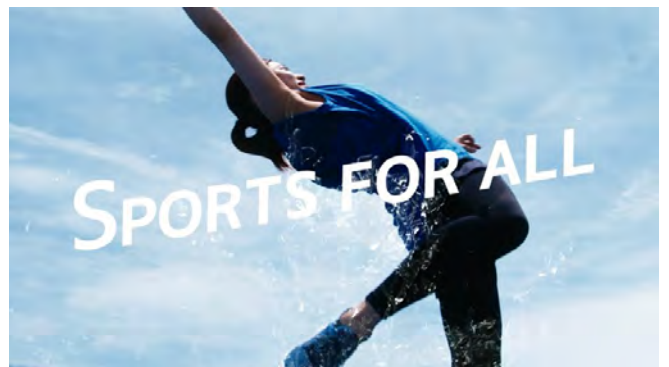
「世界大会でも活躍している学生ですからね。参加してもらって光栄です。いつもと違う条件の中でも一流の技を披露してくれました。うれしかったです」

一最後に全体の撮影を通じた感想をお聞かせください。

「撮影は梅雨の時期でした。天候次第という中なのに、撮影した3日間は晴天でした。登場する高校生、学生の競技力の高さにはホントに驚かされました。今までにない躍動感あるCM映像を制作することができました。ありがとうございます」

【登場した学生にも聞いてみました！】

一LC棟のシーンに登場する主役の女子学生（体育学科2年）がプレゼンをしています。彼女にも聞いてみましょう。
「久しぶりに着るスーツでしたし、プレゼンすることもありないので、うまくできたか心配でした」 ※実はこの女子学生、陸上競技の高跳びで背面跳びもやっています



仙台大学同窓会による大学及び学生支援、贈呈式が開催されました

7月30日（木）本学内で同窓会・同窓生有志の会より、大学運営及び学生生活支援として標記贈呈式が開催されました。

今回の贈呈式は、コロナ禍の大学経営に何らかの支援をしたいという「同窓会理事会」の思いと学生生活支援に向けた、全国の同窓生の輪が広がり結成された「同窓生有志の会」が、5月から6月中旬まで賛助金を集める取り組みを実施した結果を6月の同窓会社員総会に諮り、予算承認され本日に式に繋がったものです。

贈呈式では、開会に当たり、同窓会会長八巻芳信氏より、「コロナ禍の大学・学生支援に全国の同窓生の熱い思いが結集されて、今回の贈呈に繋がりました」とご挨拶をいただき、同窓会より大学のオンライン環境整備事業支援として、10,000,000円の目録並びに、同窓会と同窓生有志の会共催による学生生活支援として、クオカード（全学生分：同窓生有志の会より2,126,000円・同窓会より3,194,000円：総額5,320,000円）

現物と目録（内訳）が贈呈されました。

贈呈を受けた大学側、朴澤泰治理事長より「大学と同窓会の強固な関係性、これからの新しい時代の学習に向けた大学の体制整備について、同窓生の思いを伝えたい」とご挨拶をいただき、遠藤保雄学長からは「同窓会への理解、全国の同窓生の温かな思い、柴田町・船岡地区の皆さんの思いも感じてもらいたい」とコロナ禍に負けない学生たちの育成に力強いお言葉をいただきました。

<同窓会事務局 佐藤一弘>



右から佐藤一弘 同窓会事務局、八巻芳信 同窓会会長、朴澤理事長・学事顧問、遠藤保雄 学長、渡邊一郎 事務局長



オンライン環境整備事業支援として10,000,000円の目録を受け取る朴澤理事長



学生生活支援として全学生分のクオカードを受け取る遠藤学長

令和2年度 学術会主催「新任教員発表会」（第102回 学術集会）開催

令和2年度 学術会主催「新任教員発表会」（第102回学術集会）を開催しました。今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、対面の発表会ではなくオンライン（Google Class Room（以下GCR））開催とし、7月15日に公開しました。GCRでのオンデマンド開催となった今回は時間の制約なく例年以上に多くの先生方に発表資料をご覧いただくことができ、質疑応答についても対応期間を設けたうえでオンライン対応するなど、新しい生活様式に対応した発表会となりました。お忙しいところ貴重な発表資料を作成いただきました新任の先生方に感謝申し上げますとともに今年度はより柔軟な対応で学術会関連行事を開催してまいりますので学術会会員のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。

<報告：学術会>

「令和元年度(後期) 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

7月7日(火)に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。

当初、3月に授与式を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け、延期となっていました。対面での授与が困難なため、今回初の試みで、オンライン形式での開催となりました。

遠藤学長は「コロナ禍における、自宅でできる運動を発信することが大切。身に付けた知識を活かして取り組んでほしい」橋本教授(事業推進責任者)は「コロナウイルスが落ち着いたら多くの現場で活躍してほしい。さらに上の資格を目指し頑張ってください」と学生にエールを送りました。学生は「健康づくり運動サポーターで習得した知識を、将来活かしたい」「中級の資格を目指し頑張りたい」など豊富を述べました。

この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。

<報告：健康づくり運動サポーター養成担当 田中・後藤>



東京2020ホストタウン親善大使／ロシア語入門講座を開講しました

7月10日(金) 本学が招聘している「柴田町・白石市2020東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使」のセベツ・アリーナさんがロシア語入門講座を開講しました。

第1回は、本学の学生を対象に、キリル文字(ひらがな)や簡単なあいさつについての講義があり、受講した新体操競技部の杉木詩穂さん(運動栄養学科4年)は「私は在学時に2度ベラルーシに行った際に、簡単なあいさつは大体で覚えていましたが、正しい発音を学ぶことができ、とても良かった」、また同競技部の阿部紘子さん(健康福祉学科2年)は「初めてロシア語を学びました。発音が日本語と全く違い、とても難しかったのですが、身近な会話ができるように今後も学びたいです」と、積極的な感想が聞かれました。



馬 准教授/令和2年度宮城県公衆衛生研究基金の助成金が決定しました

このたび、馬 佳濤 准教授が研究している「職場の環境改善が労働者の健康および仕事効率にもたらす効果の検証」について令和2年度宮城県公衆衛生研究基金の助成金が決定しました。

この研究は近年、座りすぎが健康リスクを高めるだけではなく、働く意欲を低下させることが注目されており、本研究プロジェクトは労働者が就労時の座位時間を減少させるためにスタンディングデスクの導入や健康教育プログラムなどの介入により、縦断的に身体面および健康面の変化に加えて、仕事のパフォーマンス向上の効果を検証します。

本研究の成果を活かし、労働者の活力向上や職場の活性化、生産性の向上に寄与します。



仙台大学からATCへの道のり（後編）

みなさん、こんにちは。村上泰司です。マンスリーレポート6月号では、わたしが仙台大学に入学したことで米国アスレティックトレーナーという仕事を目指すようになり、ハワイ大学院で学ぶ日々についてご紹介しました。この度、おかげさまでアスレティックトレーナー資格試験に無事合格したことをこの場をお借りしてお礼方々ご報告させていただきます。

初めての受験で長い間の目標を達成出来たのは、朴澤泰治理事長をはじめ、ひとえにたくさんの仙台大学の方々のお力添えによるものと、心から感謝しております。本当にありがとうございました。



マンスリー7月号では、これからどのように仙台大学へ恩返ししていきたいか？について述べさせていただきます。

今後はオクラホマ州にあるノースイースタン州立大学院で健康教育を学びつつ、アスレティックトレーナーとして活動していく予定です。

1) ノースイースタン州立大学院での主な活動

大学院での勉強はもちろん、この大学に入学した大きな目的はアスレティックトレーナー（以下:ATC）としてさらに経験を積むことです。ハワイ大学大学院でATCとして身に着けた基礎知識を今回の経験で生かし、男子サッカー部と春のフットボールを主にサポートする予定です。男子サッカー部は私が主体となって部活をサポートするので、選手の日々のトリートメント等はすべて私が担当する形となり、ATCとしての責任に多少緊張もありますが、自分に自信を持ちながら頑張ろうと思います。

2) ATCとしてこの2年間で達成したいこと

この2年間で達成したいのは主に、ATCとして主体性を身に着けることです。私がイニシアチブをとり、監督や選手、そしてストレングス・コンディショニングコーチと積極的にかわりながら、選手のパフォーマンスの維持を図りたいと考えております。しかし、1年目だけにまだわからないことも沢山あり、今年はATCとして現場活動に慣れることを目標に、それが出来たうえで徐々にできる分野を増やしていこうと思います。

サッカー部は部員が約30名とアメフトに比べ、比較的管理しやすい人数なので、それを生かした活動を考えていて、特に、体重測定は通年を通して行っていきたい活動の一つです。

オクラホマの気候はハワイと比べ湿度と気温も高く、加えて、コロナウィルスの影響で例年通りのコンディショニング活動が出来ていないため、熱中症の危険性も高まります。

そこで、体重を管理することにより、選手の体調の変化を客観的にチェックしようと考えています。仙台大学で得た栄養士としてのバックグラウンドも活かしながら、選手に望ましい栄養摂取の啓もう活動も同時に進めていきたいです。

3) 今後の活動に向けた抱負

ハワイ州からアメリカ本土のオクラホマ州に移り、さまざまな人々と触れ合うことにより新たな挑戦が始まり、これからの活動がとても楽しみです。ここまでサポートして頂いた仙台大学への感謝を胸に、成長した自分の姿をみなさんに見せられるよう頑張りたいと思います。



ノースイースタン州立大学のATルーム

～ 医療の最前線から仙台大学へ・世界で活躍する人材育成を目指して ～



4月から仙台大学に教授として奉職しました櫻井雅浩です。東京出身のわたくしですが東北大学を卒業後、24年間心臓血管外科医として臨床に関わったのち、7年ほど保健行政に携わり、さらに臨床研修指導医として研修医の学術支援を行ってまいりました。今ではれっきとした東北人・仙台っ子です。

これらの少し変わった経験を仙台大学の学生たちに伝えることで、世界に羽ばたく若者を育てたいと思っています。麻布中学校時代からはじめたラグビー歴は45年、まだまだ後進に道を譲る気はありません。新型コロナウイルスが終息した時にはぜひ、仙台大学ラグビー部員とも良い汗をかきたいものです。

以下の資料と写真で簡単な自己紹介をさせていただきます。

櫻井雅浩

1962 東京生まれ

1981 麻布高校卒

1989 東北大学医学部卒

1999 博士(医学)

1989～2012 心臓血管外科(東北大学・仙台医療センター)
心臓血管外科指導医・外科指導医
日本胸部外科学会指導医

開心術後のβブロッカーの有用性
ラット移植心拒絶過程のNO毒性
ウサギを用いた冠動脈モデルの開発
全ての患者は症例報告のキタと思え

1999 東北大学医学部奨学賞
2001 東北脳血管障害研究会中村隆賞
2009 東北脳血管障害研究会中村隆賞

2012～2020 宮城県保健所長(栗原、石巻、塩釜)

女川地域での安定ヨウ素剤事前配布
ノロウイルスと環境DNA解析
東日本大震災と結核

2017 社会医学系指導医

2019 東北大学長岡憲会高橋記念賞



2006 海上救急に対する功績(海上保安庁)





1975～現在 ラグビー

麻布中学校ラグビー部
麻布高校ラグビー部
東北大学医学部ラグビー部
中高大OBチーム、クラブチーム

宮城県ラグビーフットボール協会医務委員会副委員長

「プレー一本、一生懸命にラグビーをする医師育成」
猛獣使いの「伝える力」で医師育成









ベガルタ仙台役員が講義／高大接続、ハイブリッド型授業／私立大学研究ブランディング事業一環

仙台大学はなぜ地元のプロスポーツを応援するのか？ そんな疑問を発端に地域とプロスポーツの関わりを考える前期講義『企業スポーツ論』の9回目授業（オンライン形式）が7月10日、高大接続の一環として対面形式でも仙台大学附属明成高校で行われました。講師を務めたベガルタ仙台取締役の渡辺雅昭氏は「大学、高校を運営する朴沢学園とベガルタは強い結びつきがある。今後とも一緒に地域を盛り立てていきたい」と強調しました。

この科目は大学の体育学科とスポーツ情報マスメディア学科の3、4年生を対象に開講（履修登録96人、担当教員日下三男）しています。明成高からはサッカー部の生徒約60人が、換気の行き届いた教室で聴講しました。授業にはベガルタ仙台が運営するマイナビベガルタ仙台レディースに所属し朴沢学園職員の奥川千沙、船木里奈（仙台大出）の両選手がリモートで出演し、地域とスポーツの観点から貴重な話を披露してくれました。

オンラインと対面の要素を組み合わせた「ハイブリッド型」授業は学生、生徒ともに新鮮だったようです。授業中にクラブの収入アップ策を問われると、高校生側の「海外の有名選手を獲得すればいい」との返答に対し、大学生側は授業後のレポートで「高校生の意見はシンプル・イズ・ベスト。チームが強くなるのが最善の道と言っている。観客も増えるしスポンサー収入も上がる。ただし先行投資するカネがあるかどうか」と感想を寄せました。スポーツを通じて高大の響き合う授業となったようです。

本学は現在、在仙の東北楽天、ベガルタ仙台、仙台89ERSの3球団とアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。この協定に基づく「地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」を推進すべく、文部科学省の平成30年度「私立大学研究ブランディング事業」の選定校（全国20校）の一つに選ばれております。

＜スポーツ情報マスメディア学科＞



明成高校の教室から発信された、仙台大学の講義「企業スポーツ論」。生徒たちもモニターの映像を見ながら講師の話に耳を傾けた



渡辺氏（手前）はベガルタ仙台の経営状況を分かりやすく説明し、「スタジアムに足を運んでください」と呼び掛けた

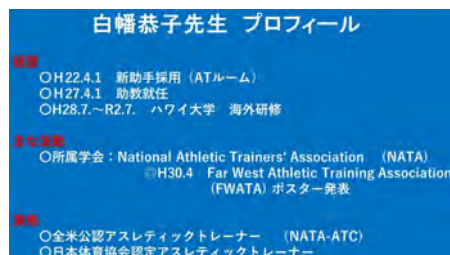
白幡恭子助教がハワイ州立大学院の運動機能学科博士課程を修了

本学の白幡恭子助教が、ハワイ州立大学院の運動機能学科博士課程を修了し、博士号を取得いたしました。白幡助教は米国モンタナ州立大学卒業後に米国公認アスレティックトレーナー（BOC-ATC）の資格を取得し、2005年からATCとして、ポートランド州立大学やハワイパシフィック大学で勤務。2010年4月から仙台大学へ奉職し、ATルームの管理運営を通して本学学生に対するスポーツ傷害外傷のケアをしてきました。2016年よりハワイ州立大学院で教育と研究を深め、このたび博士課程を修了したものです。

白幡助教は無事4年間の勉学を終えたことについて

「今までの人生の中で最も大変な4年間でした。AT教育、研究、そして脳震盪啓蒙活動プログラムと、ハワイ大学の教授陣から学んだ内容は多岐にわたり、AT教育研究の方向性を明確に出来た4年間であったと思います。今後、取得した知識や技術を、仙台大学の学生に還元していきたいと思います。また、このような貴重な機会を与えていただいた朴澤泰治理事長はじめ、支えて下さった多くの方々に感謝申し上げます。」と語っています。

なお、白幡助教がZOOMで論文発表した様子を学内のLC棟スクリーンや第三体育館前大型スクリーン、学食などで繰り返し放映しております。ぜひご覧ください。



芝草通信 NO. 15

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

8月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

夏の暑い中で高麗芝生は生育最盛期を迎えます。***自宅などの芝生の参考にもしてください。**

1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

8月になると気温も高くなり暖地型の高麗芝は生育が旺盛になります。引き続き刈り込みを頻繁に行います。乾燥に強い高麗芝生でも水不足になる事がありますので、適時水やりを行います。6月～7月にかけてキノコが約20個発生しました。キノコも菌からの発生ですから芝生床土の中に担子菌が有る事が予測され、キノコの発生を標徴として認識し、フェアリーリング病の発生前に殺菌剤を灌注しました。

- ①刈り込み：10日から2週間に1回行います。刈込により節間が短くなり、密度の高い芝生になります。
- ②水やり：好天が続く乾燥が激しいとき、葉が針のように丸まり、全体に黒ずんできたなら、水やりをします。水を与えればすぐに元の緑色を取り戻します。猛暑日の午後まで水やりを行うと葉の上の水がお湯になり葉を痛めますので、11時頃までには終わらせます。但し水量が少ない時は午後にも継続します。気温と乾燥状態を調整しながら実施します。
- ③肥料：この時期は成長が旺盛ですので、化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1㎡当たり20g～30g施します。
- ④病虫害の防除：病気の心配はほとんど必要ありません。芝生の生育が旺盛で回復も早いので、春先から初夏に病気ににかかっていたところも、8月には完全に回復します。スジキリヨトウやシバツトガが発生することがありますが、芝生の生育が旺盛なので、目に見えた被害になる事はほとんどありません。
- ⑤草取り：良く管理された芝生は密生していると雑草の生える余地が少なく、自然と減少します。密度を高めるように草刈りを小まめに行います。5月に散布した除草剤アージランの効果が少なかったところにスズメノカタビラが生き延びていましたが、多くは暑さで衰退しました。それでも生き延びているスズメノカタビラがあるところには再度アージランを散布します。

2A. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理(寒地型洋芝+暖地型洋芝)

- ①刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。
- ②水やり：異常高温乾燥に注意を払います。乾燥が続くときは毎日～2日おきに、午前中に散水が必要になります。
- ③肥料：化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1㎡当たり10g施します。
- ④病虫害防除：引き続きピシウム病に警戒をします。太陽が高くなり温度が上がるとピシウム菌が消えてしまうので、早朝の観察が必要となります。また、シバツトガなどの幼虫の発生にも気を付けます。
- ⑤草取り：病気や害虫の食害により裸地になった所や異常高温気象で乾燥が激しく散水が不足して裸地になったところに雑草が入りやすくなります。雑草を見つけたら除根します。

2B. 第二グラウンド天然芝生の利用による芝生の損傷について（寒地型洋芝+ 暖地型洋芝）

先日の入校禁止が解除され、部活動も再開された際に、同じ場所で繰り返し練習をした形跡があり部分的に枯死した様子が見受けられました。

写真1は観察区域N02の利用翌日の芝生です。写真2は2週間の養生期間後の回復状態です。繰り返し荷重がかかる練習はグラウンド外で行うか、または中心から外れたグラウンドの隅を使って行うこと、或いは頻繁に練習場所をずらしながら同じ芝草に負荷が掛からない様にする事が求められます。他に観察区として施肥と追加播種を実施した区域N01と追加播種を実施した区域N03と対象区として維持管理を何もしない区域N04と4区域に分けて観察をしました。今回は2週間利用が無くどの区域も回復が早く、養生が十分に行われ、踏圧負荷が少ないと回復が早いことが理解できました。



写真1. 第二グラウンド天然芝生 N02
【遠景】狭い箇所に繰り返しの荷重が掛かって黄変して枯死した芝草



写真2. 第二グラウンド天然芝生N02
【近景】施肥をして養生により回復した芝草

「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 27

担当：助手 小野勇太

川平アスレティックトレーニングルーム(川平ATR)における、仙台大学附属明成高校生への「教育活動」について紹介したいと思います。

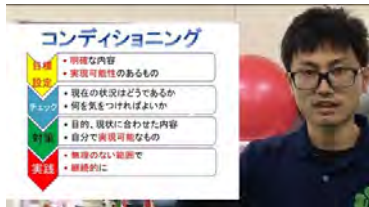
タイトルにもあるように、「高校スポーツの安全を守る」を掲げている我々にとって、安全教育がとても重要です。何か困ってからの対応というよりも、困らないように事前に行える対策は何であるかと一人一人が考え、そして行動できることが傷害予防に繋がり、結果として競技力向上に繋がります。いかにして、高校生たちの『予防意識の向上』を促進できるかが重要です。

現在も続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のような感染症予防をはじめ、熱中症予防、スポーツ傷害予防、傷害悪化予防(応急処置など)、再発予防(テーピングやストレッチングなど)、スポーツ選手にとって『予防』すべき内容は非常に多く、それら一つ一つへの対策や準備、実践していくことがコンディショニングです。私たちは、これらを高校生へ伝える役割を担っている、「高校スポーツの安全を守る」という目的達成のためにあらゆる手段を用いて「予防教育」を実践しています。

今年度5月はオンラインにより高校体育授業を実施(写真①)。休校措置解除後には、高校部活動再開に向けたガイドライン資料を作成し高校へ提案(写真②)。川平ATR利用に関するオリエンテーション(写真③)と、部活動毎に開催していた傷害予防講習会「熱中症」について動画作成(写真④)、例年にはない新しい取り組みを実施しています。今回の動画作成をきっかけに、対面授業においても、「ひとりで行えるテーピング法」の動画を作成し、コロナ対策を踏まえた授業実施への創意工夫をしております(写真⑤)。また十分なスペースが確保出来る際には、間隔をあけて実技授業も実施しています(写真⑥)。

このような様々な取り組みを通して、仙台大明成校への安全教育サポートを展開しており、これらの活動内容やその他情報発信を川平ATRのホームページより随時情報発信しております(写真⑦)。こちらホームページがリニューアルされているので、こちら是非ご覧頂ければと思います。

<https://www.sendaidaigakukawadairaatr.com/>



①オンライン対応(オンデマンド型)



②高校部活動再開に向けたガイドライン(川平用)



③川平オリエンテーション動画にて実施



④熱中症の傷害予防講習会を動画にて実施



⑤スクリーンを見ながらテーピングを実践する高校生



⑥S&Cによる「レジスタンス」実技指導



⑦リニューアルされた川平ホームページ